

Nora Poulsen Keryell

Speech Contest 2011-group A

始めまして。私はノラ・ケリエルと申します。今日はある女の人の話をします。

1959 年、あたたかい夏の日に横浜港で二十四歳のおかべひろこさんはうんめいの人に出会います。彼の名前は TOR で、ノルウェー人のふなのりです。きせつがたって、さくらがさく時、ひろこさんと TORさんは結婚しました。ひろこさんと TORさんの間には子供が二人うまれました。TORさんが海で働いている時、ひろこさんと子供は京都の弟の家に住んでいました。

1970 年の秋、ひろこさんと TORさんと子供たちは日本を出て、冬が始まったノルウェーに引っこしました。ひろこさんの名前はノルウェー人にはとてもむずかしいので、ノルウェーではようことよばれました。子供たちはノルウェーのきょういくをうけて、ノルウェーの学校に行って、ぜんぜん日本語をならいません。日本はとてもはなれているので、だんだんようこさんは日本とも家族ともコンタクトがなくなります。飛行機のきっぷは高すぎるので、日本に行けません。

そして、月日はながれました。

今、ようこさんは七十七歳です。私のぎりの父のお母さんです。ようこさんは私が日本語をもっと勉強して、日本に行くのをとても楽しみにしています。私も楽しみにしています。

ようこさんはもう日本に家族が一人しかいないかもしれません。ようこさんの弟で、きょうだいで、一番わかい、まさみさんです。ようこさんは二十年まさみさんと話していなくて、1980 年代にまさみさんからさいごの手紙をもらいました。手紙のじゅうしょは同じ京都の家で、それがさいごでした。

ようこさんにとって家族と別れはつらかったと思います。家族はとてもじゅようです。ようこさんはゆうかんだと思います。私はこの秋に日本に行く時、手紙を持って、まさみさんの家をさがしてみます。まさみさんを見つけないです。そして、まさみさんにようこさんとぎりの父とノルウェーの家族について話したいと思います。

聞いてくれてありがとうございます。